



新 ことばの科学入門 第2版

廣瀬 肇（訳） 東京大学名誉教授

B5 頁 328 2008 年 定価 6,510 円（本体 6,200 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-00715-3] 医学書院刊

＜書評者＞ 澤島政行（横浜船員保険病院名誉院長）

音声言語病理学を学ぶ人のために

本書は、2005 年に出版された同名の初版本の第 2 版である。その原本（英語）は、1980 年に出版され、1984 年にその第 2 版が今回と同じ訳者で出版されている。通算では本書は第 5 版となる。本書は、米国の大学学部生を対象に書かれた音声科学の入門書である。著者は米国ハスキンス研究所の研究員で、訳者および評者とは知り合いの仲である。2005 年の改訂で従来の著者に加えて、若手の L. J. Raphael が加わり、内容の整理、補足がなされている。

今回の第 2 版は、基本的な内容に変更はないが、章立てにかなりの工夫をこらし、学生に理解しやすく、興味をもたせるような配慮が行われている。本書の構成は、第 I 部序論（イントロダクション）、第 II 部音響学、第 III 部音声生成、第 IV 部音声知覚、第 V 部音声研究機器となり、それぞれの中で、比較的細かい章立ての下に内容が記述され、全体で 13 章となっている。全体で 7 章立ての初版と目次を比べてみると、内容的には大差はないが、第 2 版のほうが章立てがすっきりして、各章の中身が明瞭でわかりやすくなっている。

各章に『臨床ノート』が挿入されているが、これは、音声科学と音声言語病理学の接点を示そうという著者たちの意欲を表すものであろう。著者の序文によれば、本書の対象として想定されているのは、主に音声言語病理学を勉める学生である。また、初版から置かれた補

章『耳で聞く音のサンプル』も、より完成されたものとなり、医学書院のホームページにアクセスして聴取できるようになっている。

本書の著者たちは、ハスキンス研究所の音声生成および知覚研究の中心的スタッフである。同時に大学教官として学生や大学院生の教育指導にも優れた実績をもっている。本書が、1980 年の初版以来今回まで、着々と改訂、出版を続けていることは、著者たちの並々ならぬ熱意と多くの読者からの高い評価と信頼を示すものである。わが国においても、言語聴覚士の資格制度制定以来、養成校・学生も増加、それを対象にした図書、教科書なども、数多く出版されるようになった。本書も、その中の優れた入門書として、学生および教官に有用な図書である。

訳者の廣瀬博士は、1970 年から 3 年間ハスキンス研究所で、著者たちと一緒に研究生活を送っている。したがって本書の日本語訳に際しては、訳者というより、共著者に近い立場で内容を検討されたことと思う。廣瀬博士は、日本における音声言語医学、および言語聴覚士教育の第一人者としてよく知られている。博士はまた、翻訳者としても厳しい見識の持ち主である。原本の内容の正確な理解とともに、的確な日本語の表現と記述が必要である。博士の訳による本書は、その意味でも読者にとって、良い教科書となるであろう。